

年 度 評 価 シ ー ト

課名 生涯学習推進課

施設の名称 生涯学習センター（11館）	指定管理者名 公益財団法人静岡市文化振興財団
1 履行状況	
(1) 目標達成 ア 利用者満足度 目標値 90%、実績値 97.0%（前年度 97.4%） 達成率 107.8%（前年度比 100.0%） イ シチズンシップが身についた人の割合（生涯学習施設） まちづくりの主役（原動力）となる人材の育成（分野）講座について （目標）連続3回以上の講座を各施設で1回以上開催 うち連続5回以上の講座をセンター全体で4講座開催すること シチズンシップが身についた人の割合を全体の90%以上にする こと （実績）連続3回以上の講座 各施設1回以上開催、合計29講座開催 うち連続5回以上の講座は13講座開催 シチズンシップが身についた人の割合は全体の98.0% (2) 施設利用状況 ア 稼働率 42.6%（前年度 42.2%） イ 利用者数 549,666人（前年度 538,192人） (3) 人員配置状況 正規職員 111人、パート 52人 (4) 業務実施状況 ア 生涯学習事業 仕様書に定めた1,250回の107.5%にあたる1,344回（508講座）を実施することができた。延べ参加者数については、前年度24,947人に対して25,620人（673人増）と全体の受講者数の増加が見られた。なお、受講満足度については92.3%と高い水準を保っており、適切な講座運営を行うことができた。 また、仕様書に定めた事業及び要件については全て達成した。 イ 社会教育事業 仕様書に定めた24学級269回を全て開設することができた。また、全ての施設で家庭教育学級又は女性学級を開設することができた。延べ参加者数については、前年度10,936人に対して10,111人と若干減少したものの、高い水準を維持した。なお、受講満足度については87.3%と、前年度の88.0%と同様に高い評価を得た。	

ウ 維持管理業務 清掃業務ほか 27 件の保守点検業務について、第三者委託により実施した。また、98 件の修繕を実施した。 【検証・分析等】 施設利用については、利用者満足度は 97.0%と目標値を上回り、高い水準を維持した一方、前年度比ではわずかに低下した。また、稼働率及び利用者数はいずれも前年度を上回っており、施設利用は増加傾向にある。これらを踏まえ、施設運営は概ね良好に推移したといえる。 生涯学習事業については、仕様書に定めた各要件を満たしたうえで、講座数及び講座回数ともに仕様書に定めた回数以上の実施ができた。また、延べ参加者数についても若干の増加がみられるとともに、受講満足度も高水準を維持していることから、講座内容及び運営面ともに適切な事業実施がされていると評価できる。 社会教育事業については仕様書で定めた学級数及び講座回数を実施することができた。延べ参加者数については前年度と比較して若干減少したものの、受講満足度とともに高い水準を維持していることから、講座内容及び運営面ともに適切な事業実施がされていると評価できる。 総合的な評価として、令和 7 年度については、最善の事業実施がなされており、受講者満足度も高く、さらにまちづくりの主役（原動力）となる人材養成や現代的課題に関する試みも実施しており、指定管理者の創意工夫により良好な運営がなされている。 【確認結果】 ○：協定書等の内容が適正に履行されている。	2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）
【具体的な意見・要望の内容と対応状況】 意見等：清掃用具（ホウキ）を各部屋へ配布（利用可能なもの）してほしい。 対 応：清掃用具のホウキについては各部屋に配置済だが、だいぶ古くなり傷んでいるものもあることから、各部屋のホウキの状態を確認し、必要なものは買い替えて整える。 意見等：エントランスが暗い。 対 応：施設内の点検を行ったところ、蛍光灯が 1 本点滅していたため、取り替えた。 【検証・分析等】 利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。 【確認結果】 ○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。	3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価
(1) 利用者満足度調査 管理運営が適正に行われているか確認するため、施設利用者を対象にアンケート	

ト調査を実施した。

【調査結果】

利用者満足度97.0%（前年度97.4%）

回答者総数：1,722件

職員対応において「満足」「ほぼ満足」と回答した人数：1,671人

【検証・分析等】

満足度は97.0%であり、目標値の90%を大きく超えたことは高く評価できる。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

（2）市民アンケート

令和6年度までは広く市民を対象にしていたが、令和7年度は市内の高校生を対象に、生涯学習活動の実態及びニーズ把握を目的として調査を実施した。

市内の高校生を対象にした理由は、若年層における生涯学習施設の利用率向上や部活動の地域移行への参考とするためである。高校を通じて依頼を行い、Googleフォームで回答を収集した。

【調査結果】

有効回答数4,862件、当該施設の認知度34.6%

【検証・分析等】

調査結果から、生涯学習センターの認知度及び利用度はいずれも低水準にとどまっており、施設の機能や利用手続に関する情報が十分に伝わっていない実態が明らかとなった。これらの結果は、昨年度に実施した全世代を対象とした調査結果とも一致しており、年齢層を問わず「施設の周知不足」が継続的な課題であることが改めて確認された。

以上のことから、生涯学習センターの利用促進に向けては、単なる周知の強化にとどまらず、効果的な広報手法を組み合わせしていく必要があると考えられる。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

（3）その他の調査

【確認結果】

－：未実施

4 指定管理者の経理（収支）状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

指定管理業務についての収支状況については、支出超過が見られるが、これは指定管理者のプロパー職員の任用や、職員の昇給によるものである。それ以外の点については、概ね前年どおりの執行ができており、良好な状況であったものと評価できる。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無
【検証・分析等】 施設の管理運営全般に関しては適切な点検や修繕が実施され適切な管理が行われている。 講座等についても事業計画に沿って適切に実施されている。講座回数は仕様書上の規定を上回っており、内容においては、現代的課題を扱った講座や、財団内の連携による文化施設との共催、大学・行政機関・地域との連携等これまでに培われたネットワークを活用して幅広く事業を企画実施している。また、人材養成事業にも取り組み、まちづくりの主役（原動力）となる人材の育成による地域コミュニティの活性化に努めている。 引き続き、財団の持つノウハウや、専門性・総合性・地域性の経営資源を活用した強みを活かし、生涯学習活動及びまちづくり活動を着実に推進されたい。 【評価結果】 ○：良好な管理運営であった。	

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。